

【KSKQ】



あいえる らくがき帳

2017年3月号 No. 189

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 每月(1~8月)発行

もくじ

○新年度に向けて各部署より挨拶	2-3 P
○地域で暮らしたいんや!	4-5 P
○大学講演～市大編～	6-7 P
○世の中はやっぱりお金?障害者の台所調査	8 P
○新聞切り抜き紹介&書道紹介	9-10 P
○ほんわかクリスマス会	11 P
○みんなでお正月を楽しもう	12 P
○あいえる新年会	13-14 p
○障害者人権セミナーのお知らせ	15 P

あいえる協会のホームページ

<http://aiel.or.jp/>





新年度に向けての各部署挨拶

2月に法人内の人事異動がありました。大きく人員が変わったところもあれば変わらなかった部署もあります。来月4月からは新年度になりますので、ここで各部署から来年度に向けての挨拶をしてもらいます。

グループホーム・あいえる

人事異動により2月から管理者・世話人が変わり、今まで築き上げてきた“あいえるらしさ”をしっかりと引き継ぎ、新たなグループホーム・あいえるとして出発しています！今年度の集団ILPでは入居者さんでペアを組み、お気に入りのコーヒー店を探しに行ったり、色々な取り組みをしてきました！来年度の集団ILPではさらに力を入れ『みんなでBBQをする』や、『旅行にいく』など、現在計画を練っている所です！こうご期待♪

グループホームほんわか

本年度はほんわかの入居者同士で外出をしたり、クリスマス会を実施したり、より深く関わりを持てるようにと支援してきました。
2月より管理者が入れ替わり、体制も変更になりますが、新体制でも職員みんなで協力し、引き続き当事者のかたが安心して過ごせる住まいになるようにがんばっていきますのでよろしくお願いします。

ウィル

ウィルは3年目の年を迎え、前年から取り組みを始めた、缶・ペットボトルつぶしと月1回開催するみんなのぬくぬく（第3水曜日午後コミュニケーションスペースとして喫茶を行う）を中心に活動を行ってきました。缶つぶしに必要な缶は、ほとんど地域の皆さんから頂くもので作業が出来るようになりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです！こうした地域とのつながりを大切にしていくために、通所されるメンバーの皆さんにワクワクして来ていただけるために私たちが出来ることは何なのか？をこれからも考えて行きたいと思います。

社会福祉法人あいえる協会

ピア・エンジン

次号より、ピア・エンジンが中心となって発刊していくこととなりました。また、ホームページも、エンジンを中心に更新を進めております。あいえるの情報発信の主軸として尽力していきますので、今後ともよろしくお願いします。

ライフ・ネットワーク

2月より新しい職員体制となり、より一層、当事者ニーズの把握に努め、楽しく、やりがいを持って取り組めるプログラム作りを進めたいと思います。特に昨年度から販売の機会が増えた製品作りに力を入れ、製品を作る事や、製品販売での地域の方との交流など、プログラムの軸として活性化していきます。また、地域清掃や小学校とのプログラムなど地域との交流も継続します。同じ日中活動の場「ウィル」とも連携して、障害当事者の持っているパワーが注ぎ込める活動の場となれたらと思っています。

自立生活センター・まいど

本年度は住吉区内のグループホームで住まわれている方々に取材をして「障がい者 グループホーム ハンドブック」の作成に関わりました。また、平成29年2月より一部職員が入れ替わり、新体制で活動が始まっています。来月4月の新年度が始まります。新体制で引き続きがんばっていきます。

ヘルプセンター・ホップ

2月1日付の人事異動で新体制となったホップでは、ひとりひとり、新年度の目標を立てました。本年度も職員一同、元気いっぱい頑張ります。

〈畠〉『医 食 同 源』久しぶりにお弁当を作ってもらいました。

〈高井〉『上 善 如 水』流れ流されホップに漂着しました。

〈西村〉『健 康 第 一』病原菌はビールでやっつけます。

〈井本〉『試 験 合 格』時は来た。

〈池田〉『進 取 果 敢』行動あるのみです。

〈佐倉〉『胃 腸 整 腸』不調な胃腸を慎重に整腸するぜメーン。

自立生活センター・まいど

地域で暮らしたいんや！

あいえる協会では、長年親元で生活されていたり、施設や病院で過ごされている方が地域で暮らせるようお手伝いをしています！
どのように地域生活へ移行していくのかご紹介したいと思います。

私たちは、当事者と共に施設訪問をし、地域での生活を伝える活動を行っています。当事者の生き生きした姿に感化され、自分も地域で暮らしたいという気持ちを持たれる方もいらっしゃいます。また、友だちや学校の先輩などが楽しそうに暮らしている姿に憧れて決意される方もいらっしゃいます。

希望される場合は、施設の職員さんや病院のワーカーさん、相談支援センター等にお伝えください。



①イメージ調査

どんな生活をしたいか聞き取りします！
何をしたいか、どこで生活をしたいか、1日をどう過ごしていくか、ごはんの準備をどうするか、お金の管理はどうするか等を聞き取っていきます。その中で、自分ですることと手伝ってもらいたいことを整理します。また、そのためにはどんな練習をしているのか、どんな練習をしていきたいか、不安に感じていること、楽しみにしていること等も聞き取っていきます。

②計画作り

次に、いつ生活をスタートさせるのか、そのために何をしていくのか、どんな段取りで進めて行くのかを考えます。

③自立生活プログラム (ILP)

自立生活プログラムとは、地域で生活するために必要なことを体験してみる取り組みです。体験しながら、生活のイメージ作りをしたり、分からぬことを試してみることでどうしていくか考えたりします。

どんなことをしているか簡単にご紹介します！！

《イメージ作り》

●行きたい所に行ってみよう！

- 日中活動へ行ってみよう
 - 1泊2日で泊ってみよう
 - 1週間泊ってみよう
 - ごはんを作ってみよう
- 《制度学習》

- ヘルパーさんって何？
 - 使える制度を知ろう！
 - 福祉用具って何？
 - 1ヶ月の生活費を知ろう
- 《引っ越しの準備》
- 家探しをしよう
 - ヘルパー事業所を探そう
 - 必要な家具・家電を買いに行こう
 - 近くの病院を調べよう
 - 介助方法を考えよう
- 家を改修しよう（＊必要な場合）



等々 これはほんの一例です！

- *ILPの内容は希望に合わせて行うため、体験する内容は変わります。
- *基本は3ヶ月～1年ほどかけてILPを行います。計画はあくまでも予定なので、その人の状況によって期間は変わります。

④引っ越し

準備ができたら引っ越しをします。いよいよ新しい生活のスタートです♪
初日は区役所や銀行など様々な場所で住所変更の手続きを行います。

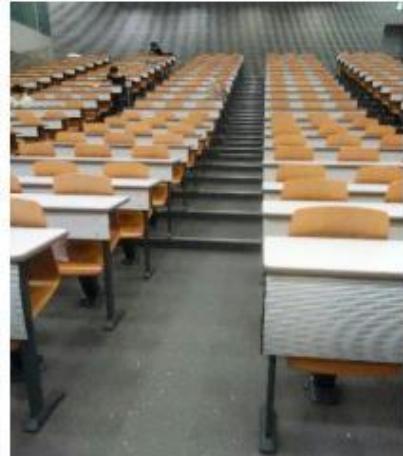
私たちちは、本人のペースに合わせて少しずつ実践しながら不安なことが自信に変わるようなお手伝いをしています。しかし、実際に移行される方はどんなにILPを積み重ねても初めて自分で決断する出来事なので、不安は大変なものようです。次号では、実際に地域移行した方へどう不安を乗り越えられたか、どういった取り組みをしたかなどインタビュー記事で掲載していきます！！

市大で講演してきました！！

今年度最後の大学講演活動の締めくくりとして、大阪市立大学の全科共通の「障害者と人権」の授業に、大学講演担当者メンバー9名で行ってきました。

市大は住吉区にあり、あいえる協会と同じ地域なので、一度つながりを作れたら思っていました。この日の授業で私達が選んだテーマは「地域で生活するのがあたり前～どんなに重度でも地域で暮らしたい！」でした。

受講生は150名ぐらいになり、階段教室でさせていただきました。その教室とスクリーンの大ささに、講演担当者メンバーは感動したり、達成感を感じたり出来たと思います。



まず、アイスブレイクとして、言語障害の方とのコミュニケーションを実際に体験して貰いました。指示を聞いて、グリコのポーズなど色々なポーズをとって貰うゲーム、題して「しっかり聞いて、できるかな？」です。準備の段階では、150人のアイスブレイクをどうするか悩みましたが、受講生は戸惑いながらも、うち解けてスタートできたと思いました。その後、パワーポイントであいえる協会の事業説明を行いました。そして、地域での障害者メンバーの色々な自立生活を、DVDを使って紹介していました。その内容は、一人暮らしの自宅紹介や、車椅子住宅の暮らしやすさの紹介とリフトを使ったお風呂介助など、そして、重度障害者同士のご夫婦のなれそめから、その暮らし振りの紹介など実際の映像で解り易く伝えていきました。その後、当事者スタッフが実際にコンビニで買い物したときに体験した差別事例の動画を見て貰い、そのときの店員が障害者のことを避けてしまったときの気持ちと、避けられてしまった障害者の気持ちを全員に考えて貰いました。それを元に、ロールプレイに参加して貰い発表していただきました。そして最後に、

障害者差別解消法を簡単に説明し、受講生とみんなで記念撮影をして終わりました。

担当の先生からは「参加体験型の授業はなかなかできないので、とても良かった。DVDも、実際のその人らしい地域での自立生活が受講生にも解りやすかったのではないか」というお褒めの感想を頂きました。この授業をきっかけに、ぜひ今後も繋がりを作っていくながら、地域での障害者の当たり前の生活を、今後も受講生に伝えていきたいものだと思いました。

そして、授業が終わった後のお楽しみは、大学講演担当者のメンバーで学食を食べことです。この日も、地域の人も食べにいけるお洒落なレストランで、美味しいランチを楽しみました。レジの横にデザートのケーキなどもあり、恵わざ 食後のデザートまで食べてしまいました！ こんな所で、私たちが作っている手作りジャムを販売できたらいいのに！ な~んて欲張りな考えをもつてしまつた、ゆったり出来た一時でした。

文責：岸田



ピア・エンジン

世の中はやっぱりお金？ 障害者の台所調査

ピア・エンジンでは、ライフ・ネットワークの当事者を対象に、障害に関する様々なことを一緒に考える取り組み「エンジンプログラム」を定期的に行っています。1月のテーマは「お金の使い方」でした。多くの障害者は、地域生活を始める前は、金銭の管理をあまり経験していません。そのため、金銭管理の支援が必要になるケースは多く存在しています。お金をどのように使っているか、当事者同士で話し合い、今後の参考にしてもらうことが狙いです。

まずは食費ですが、自炊をされている方から、外食、喫茶店に行く方まで、様々な方がいました。自炊されている方が予想以上に多く、次いで1000円前後の外食の方が多くを占める…といった傾向でした。栄養を意識している方は少數派でしたが、野菜を意識して食べている方もいました。

大きな買い物については、二万円のガスコンロを購入した方から、三千円のカセットデッキまで、様々なものが挙げられ、当然なのですが「大きな買い物」の基準は人それぞれでした。

また、お酒やタバコを嗜む方は少数派でした。施設ではそういう物を嗜めず、地域でも特に理由や機会がないので手をつけない…という方が多いかもしれませんね。

携帯代は、五千円以下で抑えている方から、一万円を超えてる方まで様々でした。電話として使う方よりも、ネットやゲームが主になっている方の方が多いのは、時代の流れでしょうか。

このように、様々な話を聞くことができました。今後も、利用者と双方でプログラムを進めていけたらと思います。

文責：森嶋

見守り隊七変化

12月



サンタが見守りにやってきた！

2月



鬼が外！？